

札幌国際芸術祭実行委員会  
2020年度 事業報告書



Of Roots and Clouds  
**SIAF 2020**  
WINTER

令和3年6月  
札幌国際芸術祭実行委員会

# 目次

1	札幌国際芸術祭2020(中止)	01
2	札幌国際芸術祭2020特別編	04
3	札幌国際芸術祭普及事業	19
4	SIAFラボ	22
5	広報実績	24
6	アンケート	25
7	講評(札幌国際芸術祭コミッティー)	30

※ 本文中のアクセス数・再生回数等は2021年3月31日現在の数値

# 1 札幌国際芸術祭2020(中止)

## (1) 札幌国際芸術祭とは

札幌国際芸術祭(Sapporo International Art Festival 略称: SIAF<sup>サイアフ</sup>)は、3年に一度札幌を舞台に開催される芸術の祭典。2014年に第1回、2017年に第2回を開催し、札幌市内のさまざまな場所で、展覧会やパフォーマンスなど多彩な表現を繰り広げてきた。

## (2) 札幌国際芸術祭2020(中止決定前)

過去2回は夏から秋にかけて開催してきたが、3回目となるSIAF2020は、初めての冬開催を予定していた。

札幌の特徴である冬の寒冷な気候や豊富な雪に加え、北方圏の文化などを取り扱い、現代アートやメディアアートの紹介などを通じて札幌の魅力を広く国内外に発信していくとともに、市民とアート関係者との交流や、新たな気づき・学びの場となることで市民の創造性を生かしたまちづくりにつなげていくことを計画していた。



### ■ 開催概要

#### 名称

札幌国際芸術祭2020(略称: SIAF<sup>サイアフ</sup>2020)

Sapporo International Art Festival 2020

ウサモシリウン アスカイ ウタラ サッポロ オッタ ウエカラバ

Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa(アイヌ語)

#### 会期

2020年12月19日(土)～2021年2月14日(日)【58日間】

#### テーマ

オブ ルーツ アンド クラウドス

Of Roots and Clouds:ここで生きようとする

シンリツ/ニスクル

Sinrit/Niskur(アイヌ語)

#### 主な会場

札幌市民交流プラザ、札幌芸術の森、モエレ沼公園、北海道立近代美術館、mima 北海道立三岸好太郎美術館、札幌市資料館(旧札幌控訴院)、札幌大通地下ギャラリー500m美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館

#### 主催

札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市

### ■ 企画体制

#### ディレクターチーム制

過去2回のSIAFは1名のゲストディレクター制であったが、SIAF2020は専門性を持つ3名のチーム制へと体制を変更し、ディレクターチームで練り上げたテーマとコンセプトを基盤に、さらなる躍進を目指していた。

企画ディレクター2名は、現代アートとメディアアートの分野で1名ずつを指名し、それぞれの特性を生かしながら、アーティストやキュレーターとの対話を通じて展覧会と関連プログラムを企画・監修した。また、公募によって選出されたコミュニケーションデザインディレクターは、展覧会作りの段階から企画ディレクターたちと協働し、鑑賞者とのあいだに立って、芸術祭をより多くの人々に届ける役割を担った。

3名が対等な立場で協議しながら展覧会・プログラムの充実を目指すのはもちろんのこと、芸術祭を分かりやすく魅力

的に伝えるための方法を企画段階から考え、実践していくことを目指した。チームには統括ディレクターを設置し、現代アート担当の企画ディレクターが担当した。



企画ディレクター(現代アート担当)  
統括ディレクター

天野太郎



企画ディレクター(メディアアート担当)

アグニエシュカ・クビツカ=  
ジェドシエツカ



コミュニケーションデザインディレクター

田村かのこ

#### キュレーター

SIAF2020では、会場となる美術館等の学芸員など地元の専門家の参画・協働を推進し、会場担当キュレーターを設置したほか、芸術祭と鑑賞者をより良い形につなぐ「アートメディエーション」の担当キュレーターを設置した。

本郷新記念札幌彫刻美術館担当 岩崎直人

アートメディエーション担当 マグダレナ・クレイス

モエレ沼公園担当 宮井和美

北海道立近代美術館・mima 北海道立三岸好太郎美術館担当 中村聖司

札幌芸術の森担当 佐藤康平

#### アイヌ文化コーディネーター

SIAF2020の関係者がアイヌに関する歴史や文化に興味を持ち、それらを企画や作品として扱う際には、基本的な背景や現在の状況などを踏まえることが必要となることから、アドバイザー兼コーディネーターの役割を設置した。

マユンキキ

#### キュレトリアルアドバイザー

企画ディレクターが発案したプログラムに関する専門知識を有する者にアドバイザーを依頼した。SIAF2020インデックスには全てのアドバイザーが執筆者として参加した。

上遠野敏

ヨアンヤ・クルイサ

草原真知子

馬 定延

中村絵美

アナ・オルフェスカ

## アドバイザーボード

SIAF2020で重点が置かれた現代アート、メディアアートそして、アイヌ文化に関して、それぞれの分野で広い見識を持つ専門家にアドバイスを依頼した。SIAF2020インデックスには短い論考を寄稿いただいた。

ヴィオレッタ・クトゥルバシス＝クラジュースカ(WROアートセンターディレクター)

アンソニー・シェルトン(ブリティッシュ・コロンビア大学教授/UBC人類学博物館館長)

吉岡 洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授)

## アートディレクター & デザイナー

コミュニケーションデザインディレクターと協働する役割として、SIAF2020全体のの広報およびデザインをディレクションした。

ワビサビ

## 参加予定アーティスト

阿部修也、青山 悟、ジュリアン・シャリエール、コッド・アクト、アナ・ドミトリウ + アレックス・メイ、シャルロット・アイフラー、藤戸竹喜、後藤拓朗、原 良介、ヒスロム、伊波リンド、エドワード・イナトビッチ(Senster)、AGH科学技術大学(Re:Senster)、池田 宏、井越有紀、パヴェル・ヤニツキ、プシェミスワフ・ヤシャルスキ、上村洋一 + 小金沢健人、川村則子、アレクサンダー・コマロフ + マキシム・ティミンコ、ディアナ・レロネク、キャロリン・リーブル + ニコラス・シュミットプフェーラー、増山士郎 featuring ジュリー・フィアラ、三上晴子、持田敦子、ジョアナ・モール、むかわ竜(むかわ町穂別産)、村上 慧、中崎 透、西野 達、小田原のどか、オキ、長万部写真道場、大槌秀樹、朴 炫貞、クラウド・ポビツァー、ライナー・プロハスカ、ニコラス・ロイ + カティ・ヒッパ、染谷 聡、クリスタ・ソムラー + ロラン・ミニョノー、曾根 裕、ターヴィ・スイサル、諏訪 敦、スザンヌ・トレイスター、山口情報芸術センター[YCAM]、吉田真也 [北海道内の美術館コレクションからの出展]

青山熊治、荒井龍男、有島武郎、ケケ・クリプス、後藤和子、端 聡、一原有徳、神田日勝、片岡球子、川俣 正、木田金次郎、菊地精二、三岸好太郎、三岸節子、中村木美、難波田龍起、岡部昌生、杉山留美子、砂澤ビッキ、鈴木誠子、田辺三重松、上野山清貢、八木伸子、山田勇男、ダナ・ザーメチニーコヴァ

## (3) 開催中止

SIAF2020では、札幌市内の屋内外・全12会場を舞台に73組のアーティスト(中止公表時点)による作品やプロジェクトを展開する予定であった。しかし、世界的に新型コロナウイルス感染症が収束しない中であって、渡航制限や移動の自粛等により、展示の準備・実現や、冬の札幌の魅力と合わせた作品鑑賞が困難となる可能性があること、また、判断の遅れにより関係者の負担が大きくなること等から、実行委員会は開催中止を決定。2020年7月22日に公表した。

## 2 札幌国際芸術祭2020特別編

開催中止となったSIAF2020の作品やプロジェクトの構想などについて、オンラインコンテンツや冊子を通じて、できる限りの方法で公開する「SIAF2020特別編～開催中止となったSIAF2020を今できる限りの方法で公開します～」を本来の会期である2020年12月19日～2021年2月14日に実施した。

### (1) 公式ウェブサイト(<https://siaf.jp/siaf2020/>)

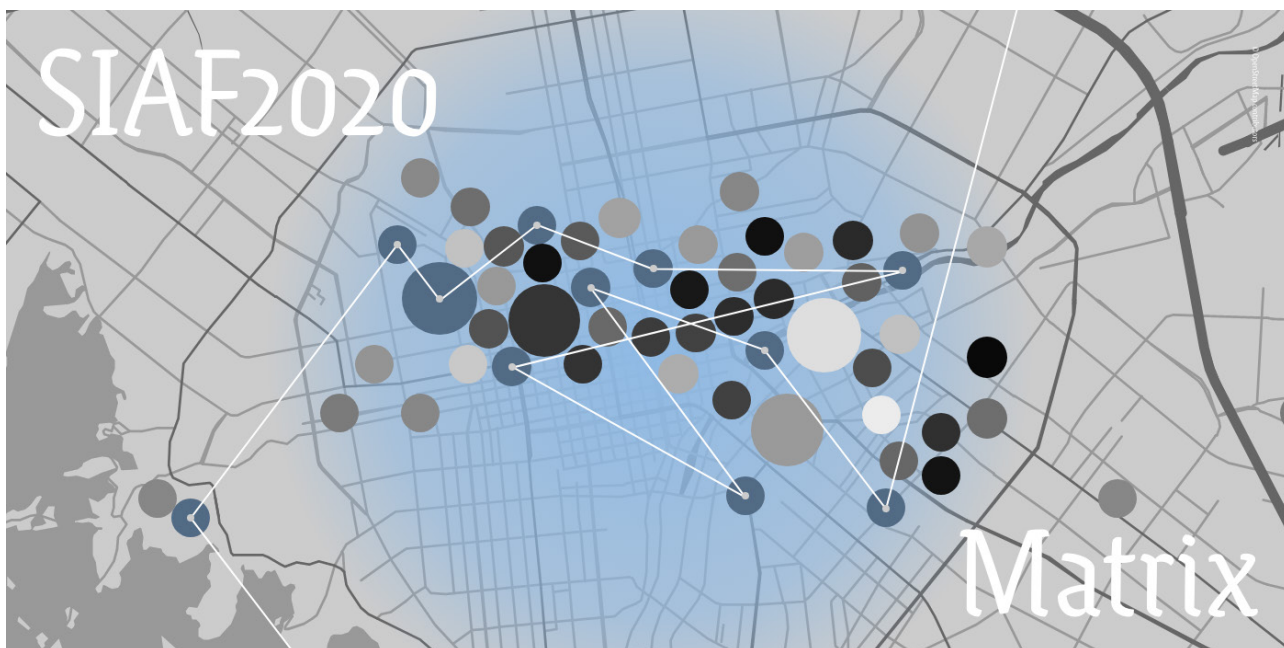


SIAF2020公式ウェブサイトは、2020年7月の公開を目指して制作を続けていたが、7月22日の開催中止発表により公開が保留となった。その後の検討の結果、開催に向けて準備していた内容を伝える情報サイトとして既存の内容を生かして調整し、2020年12月19日に公開した。このウェブサイトは、今後もアーカイブとして公開を継続する。

デザイン:白井宏昭

制作:株式会社毎日映画社北海道支局

### (2) SIAF2020マトリクス(<https://siaf2020matrix.jp/>)



SIAF2020の中止決定を受け、これまで準備されてきたアーティストの企画を紹介するオンラインコンテンツ「思弁的展覧会(Speculative Exhibition)」として実装された特設ウェブサイト。実際の展覧会の順路のように作品同士の関係性や

テーマ、コンセプトを共鳴させて体験者の想像力を喚起させるウェブサイトを目指し、AI(人工知能)を用いたインスタレーション等で知られる株式会社Qosmoと共に企画・制作を行うこととなった。

事務局とディレクター、Qosmoのプログラマー・デザイナーらによる打ち合わせを重ね、展示が予定されていた地理情報や作品のもつコンセプトに基づき、体験者の選択によって鑑賞ルートが変わる機械学習を用いたウェブ上の展覧会が完成した。

アーティストには掲載を希望する素材の提供を依頼し、ディレクターやキュレーターが全アーティストの解説を書き下ろした。

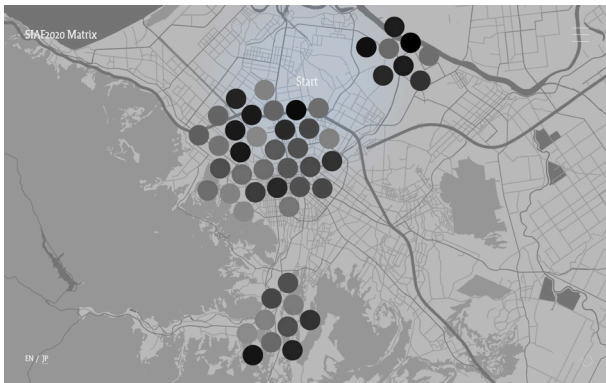
公開:2020年12月19日(土)~(公開中)

企画・コンセプト:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ

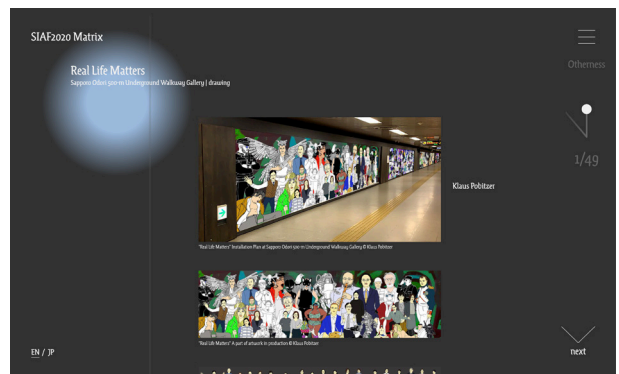
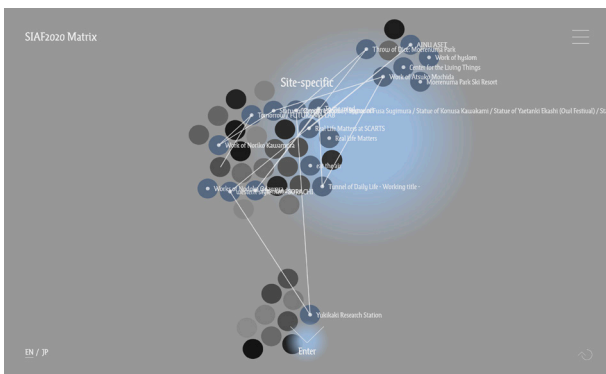
共同企画・制作:株式会社Qosmo (<https://qosmo.jp/>)

コーディネーター:西翼、野口久美子

## ■ 体験方法

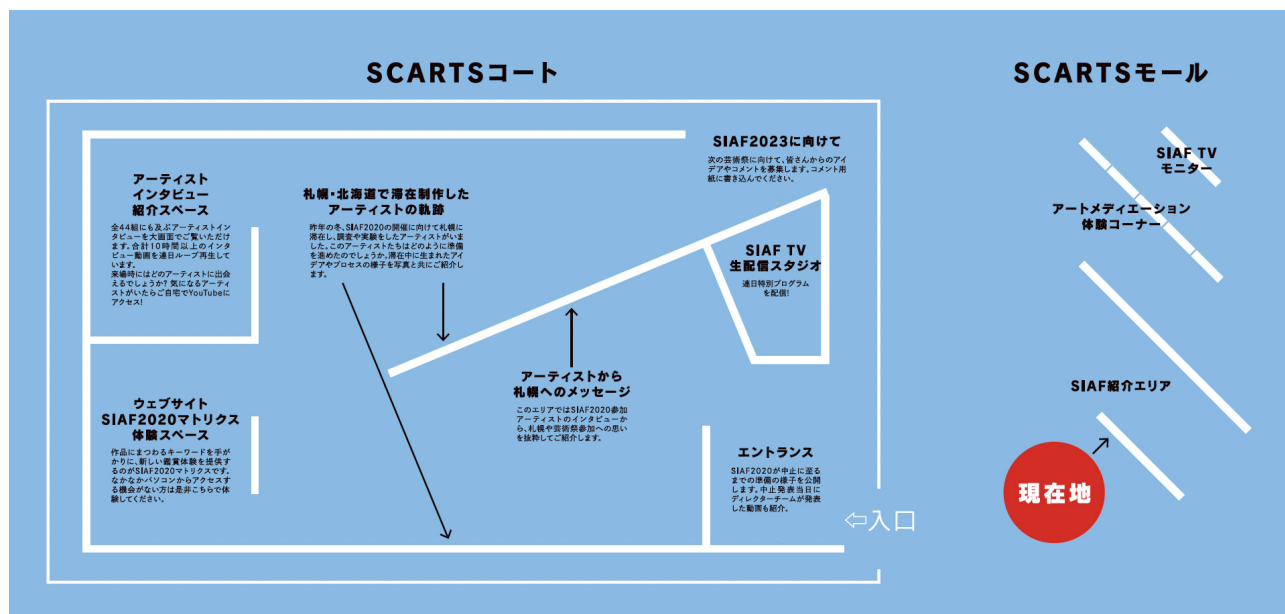


SIAF2020マトリクスにアクセスすると、作品が出展される予定であった会場の地理情報に基づいて作品を示す円が表示された後、SIAF2020にまつわるキーワードが表示される。



キーワードを選ぶと、関連する作品が機械学習によって生成されたルートにしたがって一筆書きに結ばれ、鑑賞順路が生成される。鑑賞順路に従い、展示予定作品の画像やスケッチ、ドローイング、コンセプト文や動画などを、解説とともに楽しむことができる。

### (3) 展示「SIAF2020ドキュメント」



SIAF2020で紹介予定だったアーティストや作品を、テキストや写真、動画、参考展示などで構成し、SCARTSモールA・B、SCARTSコートを会場に、10日間に渡って紹介した。

「中止」という状況下で行う展示であることから企画の監修は事務局が行うこととし、検討にあたっては、あえて具体的な作品展示を含まず、企画の全容を紹介する内容とし、全てのアーティストを対等に扱うことを目指した。その中でも、作品と鑑賞者をつなぐアートメディアエーションの観点を生かし、作品制作の背景や準備の様子などを伝えることができるため、すでに来札の上、リサーチしていた3組のアーティストを大きく扱うことにした。

なお、展示は全て特別編のために準備された動画やテキストなどのコンテンツが再構成された内容となっている。

また、会期はさっぽろ雪まつり\*と同時期開催を想定して設定された。

\*大通会場は2月4日～11日の開催を予定していたが、その後、2月4日～28日・オンライン開催となった。

開催期間:2021年2月5日(金)～2月14日(日)

会場:札幌文化芸術交流センターSCARTS 1階 SCARTSモールA・B、SCARTSコート

来場者数:2,560人

監修:札幌国際芸術祭事務局

コンセプト:細川麻沙美 空間構成:丸田知明 アートディレクション:ワビサビ

施工:株式会社ゼン

協力:札幌文化芸術交流センターSCARTS(札幌市芸術文化財団)

#### ■ SCARTSモールA・B 導入エリア

終日多くの人が行き交う会場特性に合わせて、SIAFについて知らない市民が来場することも想定し、SIAFの基本情報を軸に、2020の目玉作品となる予定だった《Re:Senster》と《むかわ竜(むかわ町穂別産)》をはじめ、全会場と参加アーティストを紹介する壁面展示、家族向けのアートメディアエーションプログラムが体験できるブースを開設した。





## ■ SCARTSコート

### <エントランス>

記録集SIAF2020インデックスに掲載されている中止までのタイムラインを抜粋した内容を壁面に展開。合わせて、ディレクターチームによる中止報告に関するYouTube動画もループ再生した。



### <メイン展示>

#### 【札幌への思い】

アーティストインタビューより札幌や芸術祭に関するコメントを抜粋し、一覧として大壁面に掲出した。



#### 【Making of SIAF2020】

2019年中に札幌に滞在したアーティストのリサーチ、実験の様子とその資料を、記録写真とともに紹介した。

+ニコラス・ロイ & カティ・ヒッパ《Yukikaki Research Station》

記録写真・テキストに合わせて実物の作品を資料展示

+後藤拓朗《洋風の人一空知》、大槌秀樹《理想の風景》

記録写真

+村上慧《広告看板の家》

記録写真・テキストに合わせて実験に使用した屋外用木製テントを復元展示



### <SIAF2020マトリクス紹介ブース>

SIAF2020の作品をオンラインならではの見せ方で体験するSIAF2020マトリクスはスマートフォンからの体験は出来ないことも考慮し、会場に2台の55インチディスプレイを設置、大画面でマトリクスを体験できるブースを設置した。

### <アーティストインタビュー紹介ブース>

2020年12月19日から2021年1月22日までの期間、YouTubeで連日公開した全44本のインタビュー動画(総計約11時間)をループ再生で上映。プロジェクターで大きく投影した。

### <出口付近>

アートメディーエーションプログラムの紹介展示を行った。具体的には、イベント期間に実際に実施したプログラムとSIAF2020で展開しようとしていた全容のイメージ図を掲出。最後の壁面は次回SIAF2023に向けての要望やアイデアなどを来場者から募る参加型の壁面を設置。43枚の意見が集まった。

### <SIAF TVスタジオ>

このドキュメント展の会期に合わせ、SIAF TVでは連日プログラムをYouTube配信した。そのプログラム配信の拠点となるスタジオを会場内に設置。配信のために、随時ゲストや担当スタッフが出入りすることで、活気ある様子が来場者からも見える特設ブースとなり、来場者が足を止め、展示自体に興味を持つきっかけとなる広報ブースとしても機能した。

#### (4) SIAF TV

YouTubeによる配信プログラム。出展予定アーティストへのインタビュー動画(全44本)と、2月5日～14日に実施した生配信プログラムにより構成されている。

##### ■ アーティストインタビュー(全44本)

SIAF2020に出展予定だったアーティストへ統一した質問を投げかけ、回答を動画として収録。

特別編をスタートした12月19日よりYouTubeで順次公開。また動画を編集した内容を資料画像とともにPDFとしてまとめ同日公開し、公開したPDFは後日SIAF2020インデックスに編集された。

コーディネーター:詫間のり子、松本知佳、劉 晶晶

文字起こし・翻訳チェック:劉 晶晶、松本知佳

翻訳:株式会社イー・シー・プロ、札幌アリアンセ・フランセーズ、ペンギン翻訳(加藤久美子)、

ウィリアム・アンドリュース、ミリアム・バード・グリーンバーグ、アンドレアス・シュトゥールマン、ポール・ヴィンセント・ファレル、萩谷海

映像編集:株式会社インサイト、株式会社札幌映像プロダクション

配信日	アーティスト
2020年12月19日(土)	エドワード・イナトビッチ (Senster) + AGH科学技術大学 (Re:Senster)、村上 慧、川村則子
2020年12月21日(月)	Cod.Act、吉田真也
2020年12月22日(火)	ディアナ・レロネク、増山士郎 featuring ジュリー・フィアラ
2020年12月23日(水)	プシェミスワフ・ヤシャルスキ、伊波リンダ
2020年12月24日(木)	井越有紀、ジョアナ・モール
2020年12月25日(金)	ジュリアン・シャリエール、むかわ竜(むかわ町穂別産)
2020年12月28日(月)	西野 達、スザンヌ・トレイスター
2021年1月4日(月)	クリスタ・ソムラー+ロラン・ミニョー、中崎 透
2021年1月5日(火)	シャルlotte・アイフラー、染谷 聡
2021年1月6日(水)	阿部修也、ニコラス・ロイ+カティ・ヒッパ
2021年1月7日(木)	ヒスロム、長万部写真道場
2021年1月8日(金)	後藤拓郎、大槌秀樹
2021年1月11日(月祝)	池田 宏、アナ・ドミトリウ+アレックス・メイ
2021年1月12日(火)	小金沢健人+上村洋一、持田敦子
2021年1月13日(水)	ターヴィ・スイサル、藤戸竹喜
2021年1月14日(木)	クラウス・ポピッツァー、アレクサンダー・コマロフ+マキシム・ティミンコ
2021年1月15日(金)	三上晴子
2021年1月18日(月)	小田原のどか、山口情報芸術センター[YCAM]
2021年1月19日(火)	ライナー・プロハスカ、キャロリン・リーブル+ニコラス・シュミットプフェラー
2021年1月20日(水)	オキ+パヴェル・ヤニツキ、朴 炫貞+パヴェル・ヤニツキ
2021年1月21日(木)	諏訪 敦、曾根 裕
2021年1月22日(金)	青山 悟+原 良介

■ 配信プログラム

展示「SIAF2020ドキュメント」(P06)会場内に特設配信ブース「SIAF TVスタジオ」を設置し、ディレクター、参加アーティスト、スペシャルゲスト等を交えた多彩なプログラムを2月5日～14日に連日配信した。「TV」という名称により、プログラムが日々稼働していることや、アクセスのしやすさを印象付けた。ライブ配信ツール<sup>ストリームヤード</sup>StreamYardを活用した生配信および事前収録番組でプログラムを構築。日本語のみ、英語のみのプログラムに加え、同時通訳を交えたバイリンガル放送も実施。

コンセプト・配信運営:山岸奈津子、詫間のり子

配信オペレーション:株式会社ヤマチコーポレーション

オープニングムービー制作・配信サポート:IRENKAKOTAN合同会社

モデレーター:田村かのこ



配信プログラム番組表

プログラムは生配信でお届け!

公式YouTubeチャンネルはこちら!

注目プログラム

SIAF2020 アーティストトーク

SIAF2020に参加予定していたアーティストが、インタビューでは伝えきれなかった企画や思いを語ります。

対決! Senster vs わかぬ電

一つに実現。東京・ポランド・札幌。それぞれの思いをアワードを巡るアート科学の共通点を探ります。

マユさんとイタナクロ

カラムのウエルカムサイアフ2020アワード文化コーディネーターのマユさんとイタナクロのお話! アワード選考やゲストをお呼びしてイタナクロの感想などを交えていきます。

天野さん! アートってなんやねん?

アートってなんなん?そんなモヤッとした疑問を投げかけたい! うさぎで賞状大賞! そんな、どんな質問にも天野さんが答えます。

感想コメントはハッシュタグ #SIAF2020特別編 でツイート!

番組内で紹介します。

	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9	2.10	2.11	2.12	2.13	2.14
12	00 ウェルカムサイアフ! 今年最大のSIAF TV! ▼ゲスト:鈴木彩可 (AIR-Gパーソナリティ)	00 ウェルカムサイアフ! 今年最大のSIAF TV! ▼ゲスト:日比野克彦 (美術家)	00 ウェルカムサイアフ! 今年最大のSIAF TV! ▼ゲスト:日比野克彦 (美術家)							
13	00 アートメディアエーション コーナー ▼ゲスト:長谷川 実 (アーティスト)	00 アートメディアエーション コーナー ▼ゲスト:長谷川 実 (アーティスト)	00 アートメディアエーション コーナー ▼ゲスト:長谷川 実 (アーティスト)							
14	00 マユさんとイタナクロ 01 AIイタナクロ編	00 マユさんとイタナクロ 02 AIイタナクロ編	00 マユさんとイタナクロ 03 AIイタナクロ編							
15	00 アーティストトーク 01 「制作のこだわり」	00 アーティストトーク 02 「制作のこだわり」	00 アーティストトーク 03 「制作のこだわり」							
16	00 マユさんとイタナクロ 04 AIイタナクロ編	00 マユさんとイタナクロ 05 AIイタナクロ編	00 マユさんとイタナクロ 06 AIイタナクロ編							
17	00 SIAF TV スタジオ オープニング	00 ウェルカムサイアフ! SIAF2020特別編のスタート! ▼ゲスト:和田 彩花(アイドル)	00 ウェルカムサイアフ! SIAF2020特別編のスタート! ▼ゲスト:和田 彩花(アイドル)							
18	00 Artist Talk 01 「にっぽん美術の未来」	00 アーティストトーク 04 「にっぽん美術の未来」	00 アーティストトーク 05 「にっぽん美術の未来」							
19	00 アーティストトーク 02 「にっぽん美術の未来」	00 アーティストトーク 03 「にっぽん美術の未来」	00 アーティストトーク 04 「にっぽん美術の未来」							
20	00 本日の振り返り/明日の予告	00 本日の振り返り/明日の予告	00 本日の振り返り/明日の予告							

SIAF TVってなに?  
開催中止になった芸術祭の内容をできる限りの方法で公開している「札幌国際芸術祭2020特別編」(12/19-2/14)の企画の一つ、YouTubeでさまざまなコンテンツを配信しているプログラムです。「SIAF2020ドキュメント」の開催中(2/5-2/14)は、会場内の特設配信ブース「SIAF TV STUDIO」から、ディレクター、参加アーティスト、スペシャルゲスト等を交えた多彩なプログラムを連日配信します。番組表で気になるプログラムをチェック!



毎日、ゲストが出演!各コーナーの詳細は公式ウェブサイトから! | 札幌国際芸術祭 | https://siaf.jp | #siaf2020info | #siaf\_info | #siaf\_info

・ウェルカムサイアフ

毎日の配信プログラムのオープニングに、SIAFの基礎情報や当日の注目プログラム、札幌の天気や展示が予定されていた会場の情報などを紹介。また、毎回多様なゲストを招き、SIAFとの関わりや思い出などをカジュアルな雰囲気でお話しながら、広く興味関心を喚起することを目指した。

モデレーター:田村かのこ、山岸奈津子

配信日	応援ゲスト
2021年2月6日(土)12:00-13:00	鈴木彩可(FM北海道AIR-Gパーソナリティ)
6日(土)17:00-18:00	和田彩花(アイドル)
7日(日)12:00-13:00	日比野克彦(美術家)



7日(日)17:00-18:00	上遠野敏(美術家)
8日(月)17:00-18:00	小町谷圭(SIAFラボ プロジェクトディレクター)
9日(火)17:00-18:00	大友良英(音楽家・SIAF2017ゲストディレクター)
10日(水)17:00-18:00	毛利悠子(美術家)
11日(木・祝)12:00-13:00	吉川のりお(STVラジオパーソナリティ)
11日(木・祝)17:00-18:00	森本 優(AIR-G'アナウンサー)
12日(金)17:00-18:00	福津京子(札幌人図鑑主宰)
13日(土)12:00-13:00	カジタシノブ(ICCディレクター)
13日(土)17:00-18:00	藤岡みなみ(タレント)
14日(日)12:00-13:00	佐藤直樹(デザイナー、画家、SIAF2017バンドメンバー)

### ・アーティストトーク

SIAF2020参加アーティストによるオンラインのトークプログラム。アーティストの特徴や制作コンセプトなどによりテーマを設定し、その内容に合わせてディレクターやキュレーターも参加。一組のアーティストとの対談、複数アーティストによるグループディスカッションなど、様々な形態で展開した。国内外のアーティストがオンラインで参加し、アーティストインタビューとは異なるアーティストの意識や作品性を伝える内容となった。

トークテーマ【配信言語】／配信日／出演者	番組イメージ
<p>アーティストトーク01「ここが私の制作スタジオ」【日/英】</p> <p>2021年2月5日(金)18:30-19:00</p> <p>アーティスト:プシエミスワフ・ヤシナルスキ</p> <p>モデレーター:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ、田村かのこ、細川麻沙美</p>	
<p>アーティストトーク02「ミート・ザ・デコステール・ブラザーズ」【日/仏】</p> <p>2021年2月5日(金)19:00-20:00</p> <p>アーティスト:コッド・アクト</p> <p>モデレーター:細川麻沙美</p> <p>通訳:札幌アリアンス・フランセーズ</p>	
<p>アーティストトーク03「札幌で制作すること」【日】</p> <p>2021年2月6日(土)15:00-16:30</p> <p>アーティスト:井越有紀</p> <p>モデレーター:岩崎直人、田村かのこ</p>	
<p>アーティストトーク04「パンデミックとアート」【英】</p> <p>2021年2月6日(土)19:00-20:30</p> <p>アーティスト:増山士郎、アナ・ドミトリウ+アレックス・メイ、ディアナ・レロネク</p> <p>モデレーター:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ</p>	

<p>アーティストトーク05「変容する場」【日】</p> <p>2021年2月7日(日)15:00-16:30</p> <p>アーティスト:村上 慧、持田敦子</p> <p>モデレーター:丸田知明、宮井和美</p>	
<p>アーティストトーク06「炭鉱とルーツ」【日】</p> <p>2021年2月7日(日)18:00-19:30</p> <p>アーティスト:大槌秀樹、後藤拓朗</p> <p>モデレーター:上遠野敏、天野太郎</p>	
<p>アーティストトーク07「コラボレーションミーティング」【日/英】</p> <p>2021年2月8日(月)18:00-19:30</p> <p>アーティスト:パヴェル・ヤニツキ、オキ、朴 炫貞</p> <p>モデレーター:田村かのこ</p>	
<p>アーティストトーク08「Play」【日】</p> <p>2021年2月9日(火)18:00-19:30</p> <p>アーティスト:中崎 透、ヒスロム</p> <p>モデレーター:小田井真美、宮井和美</p>	
<p>アーティストトーク09「アートメディエーション」【日】</p> <p>2021年2月10日(水)18:00-19:30</p> <p>アーティスト:青山 悟、原 良介、会田大也</p> <p>モデレーター:田村かのこ</p>	
<p>アーティストトーク10「制作スタジオ見学します!」【英】</p> <p>2021年2月11日(木祝)15:00-16:30</p> <p>アーティスト:ライナー・プロハスカ、ニコラス・ロイ+カティ・ヒツパ</p> <p>モデレーター:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ、マグダレナ・クレイス</p>	
<p>アーティストトーク11「メディア/インターネット」【英】</p> <p>2021年2月12日(金)18:00-19:00</p> <p>アーティスト:ジョアナ・モール、シャルロット・アイフラー、キャロリン・リーブル+ニコラス・シュミットプフェラー</p> <p>モデレーター:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ</p>	

<p>アーティストトーク12「自然現象と新しいメディア環境を繋ぐ」【英】</p> <p>配信日:2021年2月13日(土)15:00-16:30</p> <p>アーティスト:クリスタ・ソムラー+ロラン・ミニョノー、マキシム・ティミンコ+アレクサンダー・コマロフ</p> <p>モデレーター:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ</p>	
<p>アーティストトーク13「いま、かんがえていること」【日】</p> <p>2021年2月13日(土)18:00-19:30</p> <p>アーティスト:池田 宏、諏訪 敦、吉田真也、小金沢健人、上村洋一</p> <p>モデレーター:天野太郎</p>	

・マユンさんとイタカンロ

アイヌ文化コーディネーター マユンキキを講師役に、コミュニケーションデザインディレクター 田村かのこが、アイヌ語やアイヌ文化を学んでいくプログラム。マユンキキがアーティストとして参加した第22回シドニービエンナーレの報告では、ディレクターのブリュック・アンドリュースが参加した。

トークテーマ/配信日/出演者	番組イメージ
<p>01「アイヌ語講座編」</p> <p>配信日:2021年2月6日(土)13:30-14:00</p> <p>出演:マユンキキ、田村かのこ</p>	
<p>02「アイヌ語講座編」</p> <p>配信日:2021年2月6日(土)16:30-17:00</p> <p>出演:マユンキキ、田村かのこ</p>	
<p>03「ふむふむアイヌ料理編」</p> <p>配信日:2021年2月7日(日)16:30-17:00</p> <p>出演:マユンキキ、田村かのこ</p> <p>ゲスト:今ひろあき、今まさ</p>	
<p>04「ムックル編」</p> <p>配信日:2021年2月11日(木祝)16:30-17:00</p> <p>出演:マユンキキ、田村かのこ</p> <p>ゲスト:川上夏希</p>	

<p><b>05「アイヌ語講座編」</b>          配信日:2021年2月13日(土)13:30-14:00          出演:マユンキキ、田村かのこ</p>	
<p><b>06「ゲストトーク編」</b>          配信日:2021年2月13日(土)16:3-17:00          出演:マユンキキ、田村かのこ          ゲスト:石原真衣</p>	
<p><b>07「ゲストトーク編」</b>          配信日:2021年2月14日(日)13:00-14:00          出演:マユンキキ、田村かのこ          ゲスト:ブルック・アンドリュース</p>	
<p><b>08「アイヌ語講座編」</b>          配信日:2021年2月14日(日)16:00-16:30          出演:マユンキキ、田村かのこ</p>	

サイアフィキペディア  
**・SIAFIKIPEDIA**

SIAF2020ディレクターを個別に紐解くプログラム。各ディレクターが、幼少時代の思い出、これまでの経歴、SIAF2020ディレクターとなった経緯や芸術祭に対する思いなどを語った。履歴書を作り上げるようなプロセスで、その人となりを紹介した。

配信日:2021年2月6日(土)

出演:天野太郎、田村かのこ モデレーター:日比野篤

配信日:2021年2月7日(日)

出演:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシツカ、田村かのこ モデレーター:日比野篤

**・はじめての展覧会**

展覧会「SIAF2020ドキュメント」と「さっぽろウインターチェンジ2021」を札幌市内のゆるキャラが回り、気になる作品や見どころを紹介。

配信日:2021年2月6日(土)、7日(日) 出演:テレビ父さん

配信日:2021年2月6日(日) 出演:ウォッピー

配信日:2021年2月6日(日) 出演:ゆきだるマン

### ・アートってなんやねん

統括ディレクター天野太郎がアートに関する素朴な疑問に答えるプログラム。もやっとする部分を、講座形式でレクチャー。さまざまな作品を例に挙げながら、美術史の流れを紹介。視聴者からの質問にも答えた。

配信日:2021年2月6日(土)、11日(木祝)

出演:天野太郎 モデレーター:山岸奈津子、漆 崇博

### ・アートメディエーションコーナー

SIAF2020アートメディエーションプログラムで制作したワークブックや「モエレ・デ・アソボ」などを実際に体験してもらい、完成した作品の紹介やコラボレーションしたJ:COMの番組などを紹介。

配信日:2021年2月6日(土)、7日(日)、11日(木祝)、13日(土)

ゲスト:箕輪直人 モデレーター:山岸奈津子

### ・SIAFクイズ

SIAF2020でアートコーディネーターとして活躍することを目指して活動してきたSIAF部による企画。札幌・北海道に関する豆知識から、過去のSIAFに関することまでさまざまなクイズを出題。

配信日:2021年2月6日(土)、7日(日)、11日(木祝)

企画:SIAF部

### ・あなたの知らないSIAF事務局

札幌国際芸術祭事務局にはどんな人がいるのか。普段は表に出ることのない札幌市役所職員13名にクローズアップし、担当業務の内容やSIAF2020特別編の見どころなどをインタビュー形式で紹介。

企画・モデレーター:SIAF部

### ・無編集スタッフインタビュー

札幌国際芸術祭事務局で働くさまざまな専門性を持つスタッフへのインタビュー。それぞれの専門や、展開しているプログラムの見どころなどを紹介。

配信日:2021年2月6日(土)、7日(日)、11日(木祝)

### ・SIAF2020会場紹介

SIAF2020で予定していた会場(札幌芸術の森、札幌市資料館、モエレ沼公園)で現在どんな取り組みが行われているのかを、オンライン中継や動画を交えて紹介。

配信日:2021年2月11日(木祝) 会場:札幌芸術の森 出演:佐藤康平 モデレーター:細川麻沙美

配信日:2021年2月13日(土) 会場:札幌市資料館(旧札幌控訴院) モデレーター:漆 崇博

配信日:2021年2月14日(日) 会場:モエレ沼公園 出演:宮井和美 モデレーター:細川麻沙美

### ・SIAFラウンジオンライン

2020年10月にスタートしたオンラインサロン「SIAFラウンジオンライン」の第5回をSIAF TV内で配信。

アグニエシュカディレクターに注目し、配信終了後には、登録者との懇親会も実施。

配信日:2021年2月10日(水)

出演:アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ モデレーター:漆 崇博、田村かのこ



#### ・ディレクターの食卓

料理が得意なディレクター3名が事前に提示された料理名と素材を手掛かりに、当日作成した「料理」をそれぞれ披露。一緒に食卓を囲んだ。

配信日:2021年2月11日(木祝)

出演:天野太郎、アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ、田村かのこ

#### ・SIAFインデックスって？

幻の札幌国際芸術祭2020の記録集を制作する「編集チーム」と「デザインチーム」が、それぞれの苦勞と見どころを紹介。

配信日:2021年2月14日(日)

ゲスト:竹見洋一郎、廣瀬歩、佐藤恵美、工藤“ワビ”良平、白井宏昭

モデレーター:細川麻沙美

#### ・対決！ Senster vs. むかわ竜

幻となったSIAF2020の目玉となったであろう全長5mのセンスターと8mのむかわ竜。いずれも一度はその本来の姿を失いながらも、現代の技術を持って復元されている。SIAFだから出合えたであろうこの2作品に焦点を当て、全く分野が異なるメディアアート作品と博物資料である化石標本の共通点や類似性を、専門性の異なる3名のゲストと見出していった。

配信日:2021年2月14日(日)

スピーカー:櫻井和彦(むかわ町穂別博物館)、中村聖司、アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ

司会・通訳:田村かのこ

#### ・クロージングトーク

SIAF TVの最後を飾ったライブ配信プログラム「クロージングトーク」には、ディレクター3名とSIAFを支えるアドバイザー組織である札幌国際芸術祭コミッティー5名が出演。開催中止となったSIAF2020からSIAF2020特別編までを振り返るとともに、次回SIAF開催について話し合った。

配信日:2021年2月14日(日)

出演:天野太郎、アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ、田村かのこ

飯田志保子、木ノ下智恵子、久保田晃弘、吉崎元章、吉本光宏

モデレーター:細川麻沙美

通訳:株式会社イー・シー・プロ



## (6) アートメディエーションプログラム

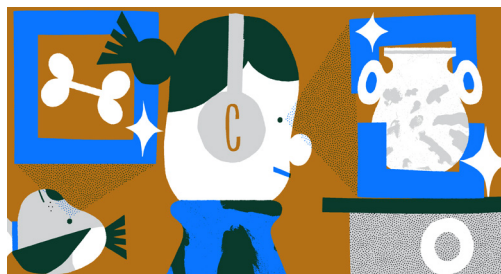
SIAF2020では、準備段階からアートメディエーションという視点を取り入れ、多様な鑑賞者と繋がることを目指した。2018年より実施したイベントから、予定していた開催期間中のプログラムに至るまで、年齢やアートへの関心度が異なる鑑賞者を想定し、その視点に立つことを意識しながら企画を進めた。SIAF2020開催中止決定後に企画された特別編のプログラムのほとんどが大人向けのコンテンツとなることから、実際の芸術祭でのプログラムが展開できなくなったアートメディエーションプログラムでは子どもや家族向けにフォーカスし、芸術祭のテーマや視点を伝える企画を構築。限られた準備期間内で複数のプログラム準備を可能にするため、キュレーターであるマグダレナ・クレイスとの協働がスムーズなポーランド在住の協力者をチームに迎えた。ポーランド側、札幌側での綿密なオンラインコミュニケーションのもと、身近な場所でいつでも安全に体験できる4つのアクティビティを準備した。

公開:2020年12月19日～公開中(<https://siaf.jp/siaf2020/art-mediation-program/index.html>)

コンセプト:マグダレナ・クレイス

### ■ 聴いて、感じて、楽しいオーディオガイド

家で楽しむ異色のオーディオガイド。最も身近な空間を、いつもと異なる視点で観察するような体験をもたらす。日本語版、英語版の制作後、広報の観点も取り入れた日本語特別版も制作し、日英版はSIAF2020ウェブサイト、特別版はYouTubeで公開。脚本はキュレーターによるテキストをベースに、事務局が共同で編集。ナビゲーターの音声のもとに、編集作業はポーランド在住のサウンドエンジニアが行った。



テキスト:マグダレナ・クレイス、松本知佳、細川麻沙美

サウンド:パヴェル・クレイス

英語校正:バルバラ・クレンゲル

日本語校正:田村かのこ

ナビゲーター:田村かのこ(日本語版)、マグダレナ・クレイス(英語版)、和田彩花(日本語特別版)

### ■ ワークブック「うんとね from さっぼろ」

SIAF2020から生まれたキャラクター「うんとね」と一緒に、「Roots /根・ルーツ」と「Clouds /雲」を連想する札幌市内のさまざまな場所を巡るという内容のワークブック。読者は表紙に空いた穴を使って不思議な形の定規を作り、ワークブックにどんどん書き込みができるようになっている。キュレーターによるテキストをベースに、事務局が共同で編集。ポーランド側でのデザイン作業後、日本側で和文を組版し、調整を重ねながら制作した。



仕様:特色(PANTONE)三色刷り、表紙に特殊加工(切り抜き)

テキスト:マグダレナ・クレイス、松本知佳、細川麻沙美

英語校正:バルバラ・クレンゲル

イラストレーション・デザイン:パヴェル・ミルドネル

アイデア協力:SIAF部 日本語組版:白井宏昭 印刷:株式会社須田製版



### ■ みんなの・みんなで「Of Roots and Clouds」

日常にある「Roots /根・ルーツ」「Clouds /雲」の写真を集めるインスタグラムプロジェクト。

ハッシュタグ「#netokumo」をつけて投稿された写真、またはメール添付で事務局に送付された写真を集めて、ユニークなコレクションを作りあげた。写真が並ぶインスタグラムの特性を考慮し、SIAF公式インスタグラムアカウントとは別に特設アカウント(@siaf\_netokumo)を開設。2021年3月31日の最終更新後は、アーカイブとしてアカウントを維持・公開している。



アイコンイラストレーション:パヴェル・ミルドネル

運用・投稿:松本知佳、劉 晶晶

### ■ クリエイティブセット「モエレ・デ・アソボ」

モエレ沼公園で見られる様々な「かたち」をモチーフにした子ども向けのツール。モエレ沼公園をデザインしたイサム・ノグチの「宇宙から公園はどのように見えるか」という考えを紹介し、その視点を体験するもの。土台となる3種類のボードと、その上に自由に配置できる33種類のカラフルなブロックで構成される。木製バージョン(現在はモエレ沼公園に常設)と自宅で印刷することができるPDF版を制作。

キュレーターのコンセプトのもとポーランド在住デザイナーがデザインを担当、木工製作は札幌の地域活動支援センターにより行われた。

2021年1月24日に木製バージョンを使用した家族向けワークショップも実施した(参加者14人)。



協力:宮井和美、公益財団法人札幌市公園緑化協会

木工製作:地域活動支援センター 一歩本舗(特定非営利活動法人札幌市福祉生活支援センター)

木工製作協力:元気ジョブ(特定非営利活動法人札幌障害者活動支援センター)

デザイン:パヴェル・ミルドネル

コーディネート:松本知佳

ワークショップファシリテーション:宮井和美、細川麻沙美

PDF版日本語組:白井宏昭

### 3 札幌国際芸術祭普及事業

#### (1) ふむふむルーム

札幌芸術の森工芸館内にPRスペースを設置、コミュニケーションマークを活用した壁面シートや吊り下げ式のバナーでSIAF2020への機運醸成を図るとともに、各種PR映像の放映やパンフレットの配架を行なった。

設置期間:2020年6月1日～8月23日

入館者数:12,936人



#### (2) さっぽろアートステージ2020 PRブース

標題イベントの連携事業として、札幌駅前通地下歩行空間(チ・カ・ホ)北1条イベントスペースにPRブースを設置した。

開催期間:2020年11月7日～23日

来場者数:289,200人(チ・カ・ホ会場分/主催者発表)



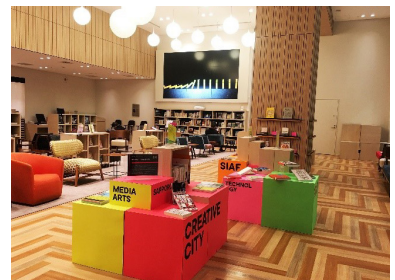
#### (3) 創造都市さっぽろ 関連図書展示

創造都市ネットワーク担当が実施する図書展示企画の一環として、札幌市・図書情報館においてSIAF関連書籍を展示した。

実施期間:2020年12月10日～2021年1月12日

展示図書:『人と自然が響きあう都市のかたち』『Switch別冊 札幌国際芸術祭2014 都市と自然』『札幌国際芸術祭2017公式ガイドブック 札幌へアートの旅』『札幌国際芸術祭2017開催報告書』『SPACE-MOERE PROJECT』『SIAF LAB. ANNUAL REPORT 2017』『芸術祭と地域づくり』

来場者数:9,256人(推計値)



#### (4) 広報リーフレット

SIAFの広報リーフレットを新たに作成。より多くの方に親しみやすいデザインとしたほか、これまで会場となった場所の解説や、坂本龍一／大友良英前ディレクターの対談、現代アート・メディアアートの解説やSIAF2020ディレクターの思いなどを掲載。

発行年月:2020年12月



#### (5) 環境広場さっぽろ2020バーチャルツアー PRブース

次世代を担う子どもたちが環境を学ぶことができるオンラインイベント「環境広場さっぽろ2020バーチャルツアー」にPRブースを出展。

開催期間:2021年1月8日～14日

来場者数:99人



## (6) ディレクターズニュース

新型コロナウイルス感染拡大を受け、ディレクター3名がSIAF2020の企画や構想、コロナ禍におけるアート情勢等について発信するYouTubeコンテンツ「ディレクターズニュース」を配信した。



	配信日	タイトル	再生回数
1	5/1(金)	Newly launched! ディレクターズニュースの配信はじめました。	955
2	5/3(日)	世界の”美術館”は新型コロナウイルスにどのように立ち向かっている？	316
3	5/5(火)	世界の”芸術祭”は新型コロナウイルスにどのように立ち向かっている？	335
4	5/9(土)	札幌国際芸術2020のテーマをアイヌ語で言ってみよう！	623
5	5/16(土)	札幌国際芸術祭をアイヌ語で言ってみよう！	375
6	5/29(金)	マユンさんとイタカンロ！（シドニービエンナーレ編）	367
7	6/12(金)	マユンさんとイタカンロ！（シヌイエ編）	295
8	7/3(金)	ディレクターオススメ書籍特集	361
	7/22(水)	札幌国際芸術祭2020開催中止のお知らせ	1,801
9	10/1(木)	コミュニケーションデザインってなに？	491
10	10/9(金)	アートメディエーションってなに？	371
11	10/30(金)	おしえて！天野さんの考えた SIAF2020！	336
12	11/20(金)	アートは止められるのか？アグさんの考えた SIAF2020！	167
13	11/28(土)	おしえて！アグさんの考えた SIAF2020！	133

## (7) SIAF部

展示・イベントなどのコーディネート、アーティストのサポートといったさまざまな活動を通じてアートプロジェクトを実施するためのスキルを習得し、芸術祭と参加者を結ぶ存在を目指す人材育成プロジェクトとして2018年から活動を開始。SIAF2020の方向性が決定してからは、アートメディエーションプログラムにリーダーシップを発揮できるメンバーとして活動することを目指した。

部員数:5名

2020年度活動回数:10回

活動内容:事務局スタッフによるレクチャー受講、アーティストツアーへの帯同、展覧会の鑑賞ガイドなど

## (8) SIAFラウンジ(札幌市資料館(旧札幌控訴院)内)

SIAFに関する情報発信を目的とし、多数のパンフレットや関連書籍を閲覧できるほか、併設カフェで軽食を楽しむことも可能なスペースを2015年から設置・運営している。

2020年度各月来場者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
110	0	315	350	321	353
10月	11月	12月	1月	2月	3月
435	326	164	107	215	391



※4/13～5/31は新型コロナウイルス感染症の影響により休館

### (9) SIAFラウンジオンライン

参加者とアート関係者が集まり、リラックスした雰囲気ですIAFやアートのことについて語り合う登録制のオンラインサロンとして、2020年10月より毎月10日に開催中。



開催日	ゲスト	参加者数
第1回 10/10(土)	田村かのこ(SIAF2020ディレクター) 草野竹史(NPO法人ezorock代表)	23人
第2回 11/10(火)	関川航平(アーティスト) 天野太郎(SIAF2020ディレクター)	28人
第3回 12/10(木)	青山 悟、会田大也、持田敦子、原 良介、増山士郎 (SIAF2020参加アーティスト)	19人
第4回 1/10(日)	石田勝也、小町谷圭、船戸大輔、平川紀道 (SIAFラボプロジェクトディレクター)	15人
第5回 2/10(水)	アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシュツカ (SIAF2020ディレクター)	11人
第6回 3/10(水)	田村かのこ(SIAF2020ディレクター)	16人

### (10) 市民向けアウトリーチ

■ 札幌市市民文化局文化部が主催する小学校向け出前講座プログラム「学校deカルチャー」において、2020年9月2日、札幌市立澄川小学校5・6年生の児童160人を対象に、イサム・ノグチ、本郷新など札幌市内にあるアートや、SIAF出展作品などの鑑賞ポイントを解説する授業を実施した。

講師:細川麻沙美

■ 北海道立札幌啓成高等学校における課題探求型プログラム「Future Vision」にてNPO法人ezorockが実施した授業「コミュニケーションデザインを学ぶ」内で、SIAFの紹介やアートを切り口にしたコミュニケーション授業などを実施した。

Future Vision実施期間:2020年7月16日～2021年2月4日(うちSIAFとの共同授業:2020年10月～12月)

対象:同校2学年の生徒(選択制)

参加人数:20人

■ 札幌市立大学の1学年向け講義「さっぽろを学ぶ」の一環として、2020年11月12日、デザイン学部、看護学部の学生53人を対象に、札幌国際芸術祭の成り立ちや、SIAF2014、2017、2020の見どころなどを解説する授業を実施した。

講師:細川麻沙美

### (11) 札幌美術展2020青少年等招待事業

札幌芸術の森美術館で開催された展覧会「札幌美術展 アフターダーク」に市内の大学、専門学校、高校の美術・デザインを学ぶ学生を招待する事業を実施した。

展覧会開催期間:2021年2月27日～4月11日(招待事業は3月31日まで)

主催:「アフターダーク」青少年等招待事業実施委員会(札幌芸術の森美術館、札幌国際芸術祭実行委員会)

招待数(鑑賞券配布数):2,881名

## 4 SIAFラボ

SIAFラボは、SIAFを支える文化の土壌づくりを目指して2015年に誕生し、以降、ジャンルの垣根を超えて多彩なプログラムを実施するオープンなプラットフォームとして活動している。

2020年度はR&D(研究開発)、アートプロジェクト、人材育成を3本の柱として、次の活動を行った。

アート エンジニアリング スクール

### (1) Art Engineering School

札幌文化芸術交流センターSCARTSとの連携によるプログラムで、SIAFでメディアアート作品を扱うことのできるテクニカル人材の育成と、世界各国で活躍するエンジニアとの人的ネットワーク構築を目的に、2020年度からスタートした。

オーディオ ビジュアル ベーシック

#### ① Audio/Visual Basics

プロジェクター、照明、音響機器の基本的な仕組みを理解するためのYouTubeプログラム。配信映像の編集を通じて、スキルアップを目指す学生の技術習得の機会としても活用された。

配信日	タイトル	再生回数
7/1(水)	#00.0 アートエンジニアリングスクール導入編	343
7/3(金)	#00.1 アートエンジニアリングについて<前編>	180
7/10(金)	#00.2 アートエンジニアリングについて<後半>	113
7/17(金)	#00.3 アートエンジニアリングについて<座談会>	83
8/7(金)	#01.0 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   プロジェクター編 第1回	115
8/13(木)	#01.1 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   プロジェクター編 第2回	96
8/21(金)	#01.2 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   プロジェクター編 第3回	68
9/14(月)	#01.3 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   プロジェクター編 第4回	61
9/25(金)	#01.4 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   プロジェクター編 第5回	64
10/13(火)	#02.0 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   照明編 第1回	106
10/23(金)	#02.1 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   照明編 第2回	65
11/13(金)	#02.2 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   照明編 第3回	39
11/20(金)	#03.0 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   音響編 第1回	56
12/7(月)	#03.1 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   音響編 第2回	27
12/12(土)	#03.2 SIAFラボ AES_Audio/Visual Basics   音響編 第3回	36

バックステージパス

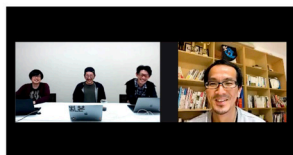
#### ② Backstage Pass

展覧会や制作現場の裏側を見学できる参加型のオンラインプログラム。

2020年9月15日 Backstage Pass to Rhizomatiks <sup>ライゾマティクス</sup> 参加者数33人

REPORT "Rhizomatiks / ONLINE"

2020年9月15日(水)、SCARTS x SIAF LAB、アートエンジニアリングスクール(AES)のプログラムのひとつである、制作の裏側/バックステージの見学授業「Backstage Pass(バックステージパス)」が開催されました。1回目は、ライゾマティクスのスタジオへオンラインで訪問です。作品が生まれた現場の様子を、レポートでお伝えします!レポートは、SIAF館に所属している行天フキコさんです。





アート エンジニア ファイル  
③ Art Engineer File

第一線で活躍する専門家や実践者の方々にインタビューをし、表現と技術の関係や技術の役割について、SIAFラボが提唱する「アートエンジニアリング」の考えを深めるためのYouTubeプログラム。

配信日	タイトル	再生回数
10/19(月)	Art Engineer File #00 石橋 素 / Motoi Ishibashi	322
10/30(金)	Art Engineer File #01 伊藤 隆之 / Takayuki Ito	127
10/30(金)	Art Engineer File #02 会田 大也 / Daiya Aida	126
12/25(金)	Art Engineer File #03 金築 浩史 / Hiroshi Kanechiku	230
3/29(月)	Art Engineer File #04 高原 文江 / Fumie Takahara	24

## (2) さっぽろウインターチェンジ2021

札幌の冬を普段と違う見方でクリエイティブに楽しむプログラム。  
SIAFラボとSCARTSによる新たな共同プロジェクトを紹介する展覧会  
「Extreme Data Logger:都市と自然の記憶」を開催、「除雪彫刻」などを  
展示した。

<https://siaflab.jp/wic2021/>



会期: 2021年2月5日～14日

会場: 札幌文化芸術交流センターSCARTS 2階 SCARTSスタジオ、SCARTSモールC

企画: SCARTS x SIAFラボ

展覧会ディレクション: SIAFラボプロジェクトディレクター 小町谷圭、平川紀道

制作: SIAFラボプロジェクトディレクター 石田勝也(札幌市立大学デザイン学部人間空間デザインコース講師)、  
小町谷圭(メディア・アーティスト/札幌大谷大学芸術学部准教授)、船戸大輔(エンジニア/株式会社アートフル代表取締役)、  
平川紀道(アーティスト)、SIAFラボプロジェクトリーダー 久保田晃弘(アーティスト/多摩美術大学教授)

テクニカルディレクション: 岩田拓朗(SCARTSテクニカルディレクター)

撮影: 門間友佑 デザイン: IMPROVIDE Co., Ltd

主催: 札幌市、札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)、札幌国際芸術祭実行委員会

協力: 札幌市雪対策室

来場者数: 1,937人

※ 関連イベント(市民向けワークショップ)

SIAFラボ スノーシューとGPSロガーで描くモエレの雪上絵

会場:モエレ沼公園 参加人数:6人

## (3) 活動報告書

2021年3月、2018年度～2020年度の活動をまとめた  
「SIAF LAB. ARCHIVE 2018-2020」を発行。

<https://siaflab.jp/about/>



## 5 広報実績

### (1) 特設ウェブサイト アクセス数

65,350PV(うち海外からのアクセス数 8,887PV)

### (2) SIAF2020マトリクス アクセス数

29,533PV(うち海外からのアクセス数 4,016PV)

### (3) YouTubeコンテンツ

33,345再生(うち海外から5,902再生)

### (4) SNSフォロワー数

#### ① Twitter

札幌国際芸術祭(@SIAF\_info) 5,620

札幌国際芸術祭英語版(@SIAF\_info\_EN) 91

SIAFラボ(@SIAFlab) 659

SIAFラウンジ(@SIAF\_LOUNGE) 631

#### ② Facebook

札幌国際芸術祭 8,853

#### ③ Instagram

札幌国際芸術祭(@siaf\_info) 1,124

SIAFラボ(@siaflab) 120

#### ④ Weibo

札幌国際芸術祭(@札幌国际艺术节) 259

### (5) メディア掲載実績

#### ① SIAF2020特別編／さっぽろウインターチェンジ2021関係

新聞7件(道内紙5件、全国紙2件)、テレビ13件、ラジオ9件、美術誌1件、フリーペーパー1件、広報さっぽろ1件、WEB  
メディア約460件(国内約280件、国外約180件)

#### ② その他(2020年2月記者発表、SIAF2020中止など)

新聞12件(道内紙5件、全国紙7件)

## 6 アンケート

### (1) インターネットによる市民アンケート

調査期間:令和3年2月4日(木)～2月7日(日)

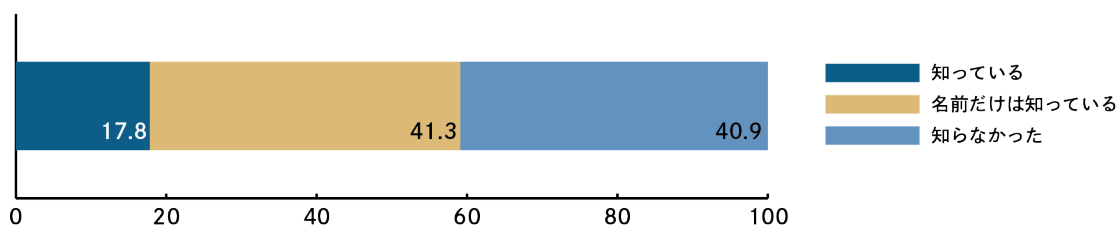
調査方法:インターネット(クローズ型)

※民間のインターネット調査会社が保有する多数のモニターを活用したアンケート

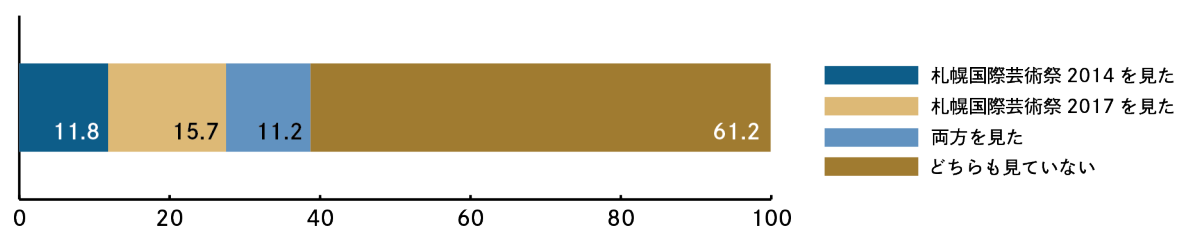
設問数 :全8問

調査対象:札幌市民 1,000人(20代以下、30代、40代、50代、60代以上の男女各100人)

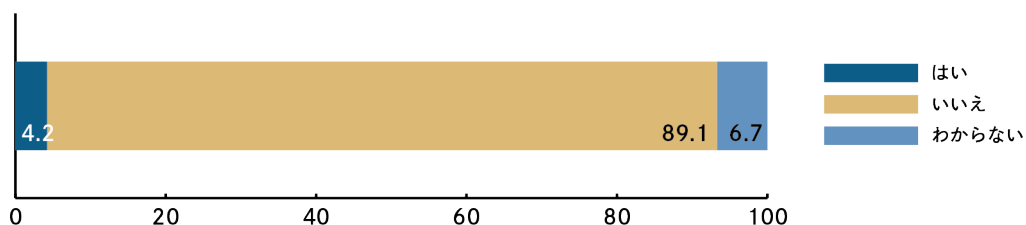
Q1.札幌国際芸術祭を知っていますか。



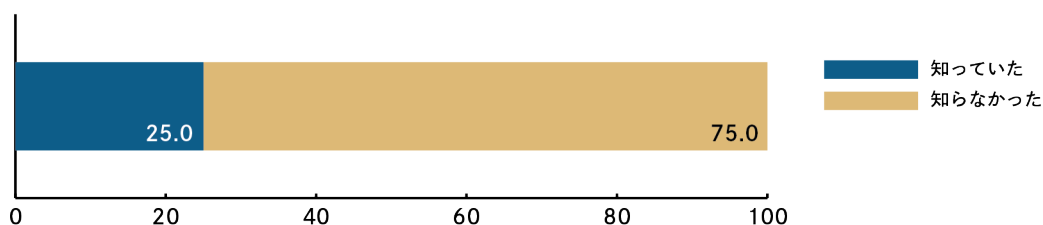
Q1-1.Q1で「知っている」と答えた方(178人)にお聞きします。過去の札幌国際芸術祭をご覧になったことはありますか。



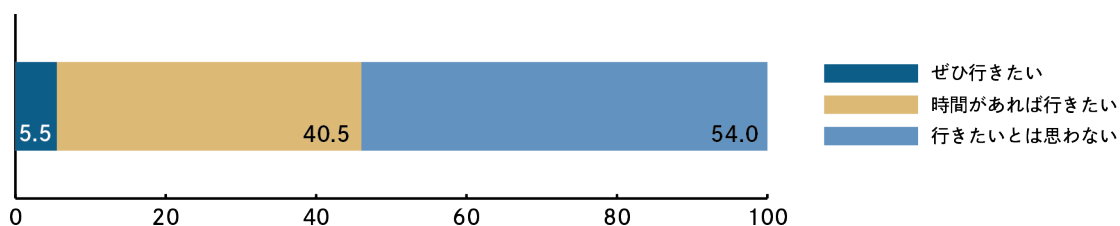
Q2.札幌国際芸術祭の関連イベントに参加したことはありますか。



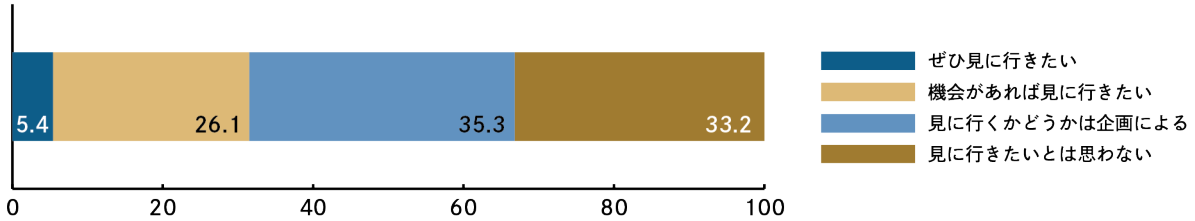
Q3.札幌国際芸術祭2020が中止になったことを知っていますか。



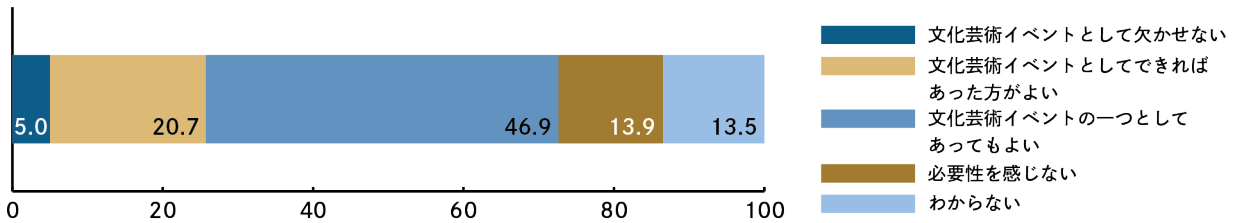
Q4.札幌国際芸術祭2020特別編に行きたいと思いませんか。



Q5.札幌国際芸術祭2023の開催についてあなた自身に最も当てはまるものを選んでください。

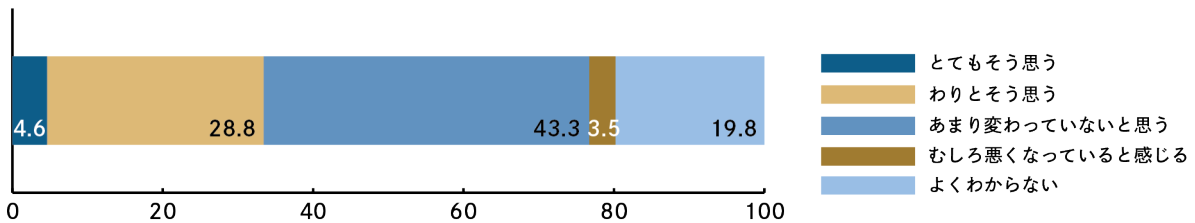


Q6.札幌市は文化芸術施策として札幌国際芸術祭を開催していますが、あなたは芸術祭にどのような印象を持っていますか。最も当てはまるものはなんですか。

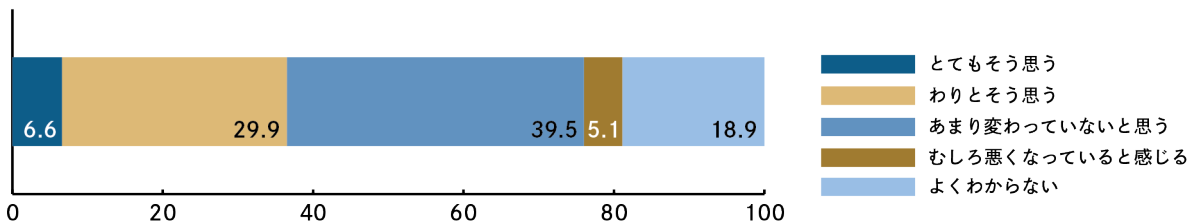


Q7.札幌市(芸術祭実行委員会)では、札幌国際芸術祭の開催を通して、札幌を創造性・多様性・寛容性に富んだ街にしていきたいと考えています。数年前の札幌と今の札幌を比較して、この街に感じる印象をそれぞれお答えください。

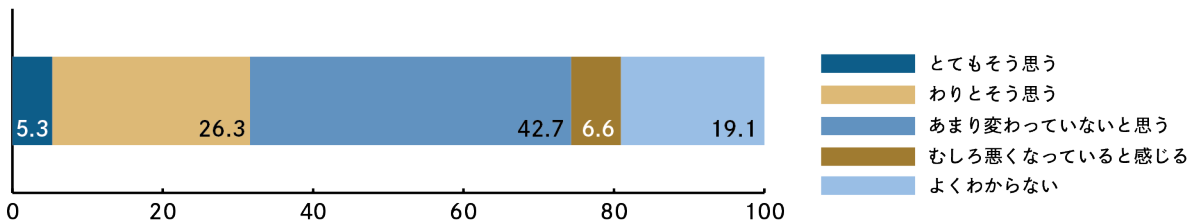
①新しいことがたくさん生まれる刺激的な街になってきている



②さまざまな人が行き交い、あるいは移住し、活発な交流が生まれる街になってきている



③人と違うことやありのままに生きることなどに対して、受け入れてもらえる街になってきている



(2) SIAF2020ドキュメント及びさっぽろウインターチェンジ2021アンケート

SIAF2020ドキュメント及びさっぽろウインターチェンジ2021の開催にあたり、来場者に対面・据置き方式でアンケート調査を実施した。

■アンケート調査結果

<調査概要>

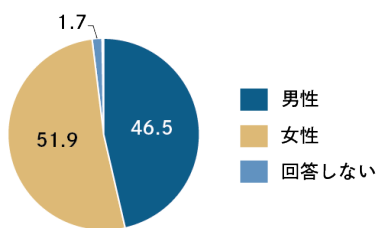
調査期間:令和3年2月5日(木)~2月14日(日)

調査方法:来場者による記入式(インターネット、紙併用)

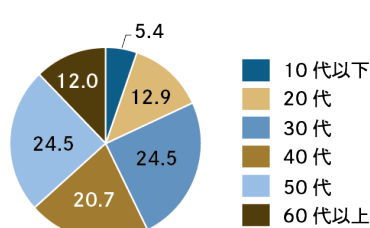
設問数 :全14問

調査対象:それぞれの会場の来場者 241人

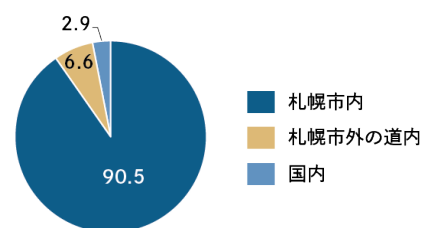
<性別>



<年齢>

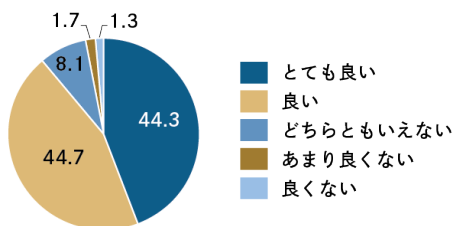


<居住地>

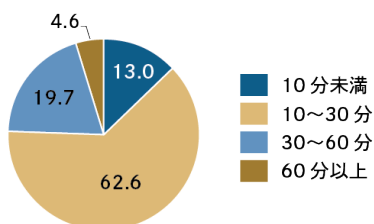


■「SIAF2020ドキュメント」についてお伺いします。

問1.展示をご覧いただいていたかがでしたか。[N=235]

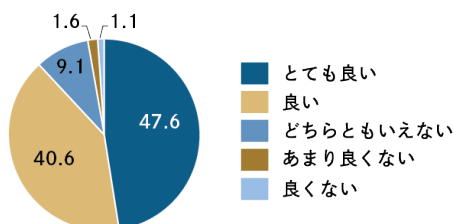


問2.どのくらいの時間、展示をご覧になりましたか。[N=238]

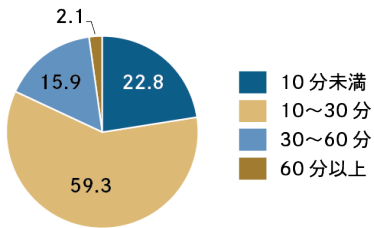


■「さっぽろウインターチェンジ2021」についてお伺いします。

問3.展示をご覧いただいていたかがでしたか。[N=187]

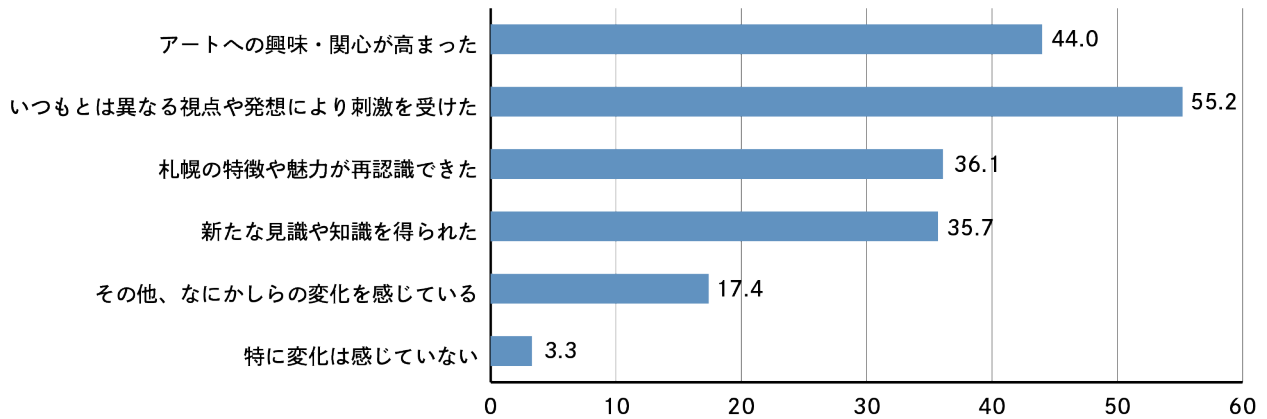


問4.どのくらいの時間、展示をご覧になりましたか。[N=189]

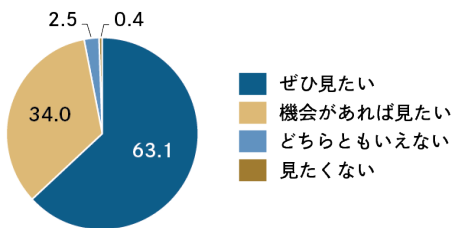


■全体についてお伺いします。

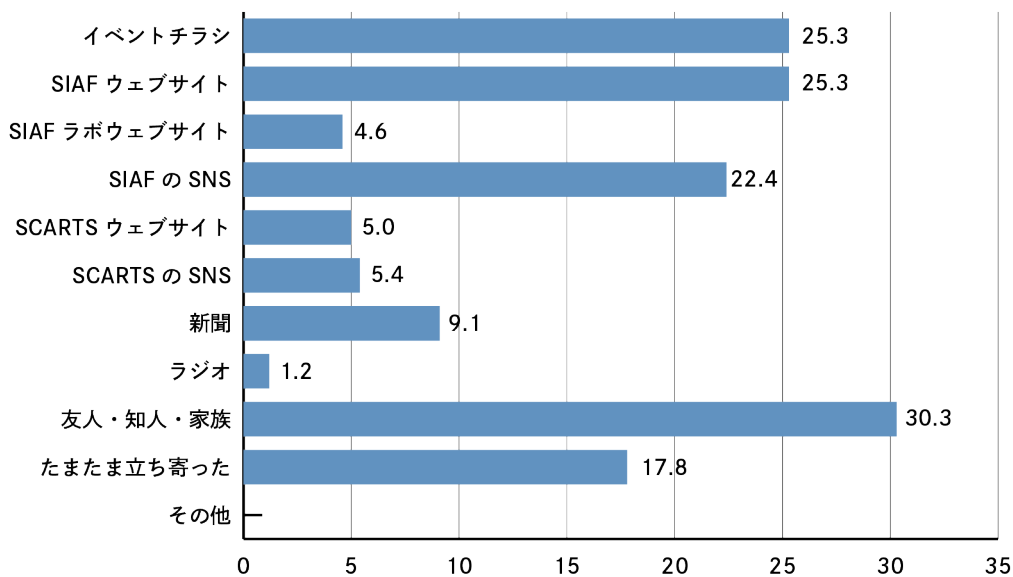
問5.展示を見終わった今の状態として当てはまるものを選んでください。(複数回答可)[N=241]



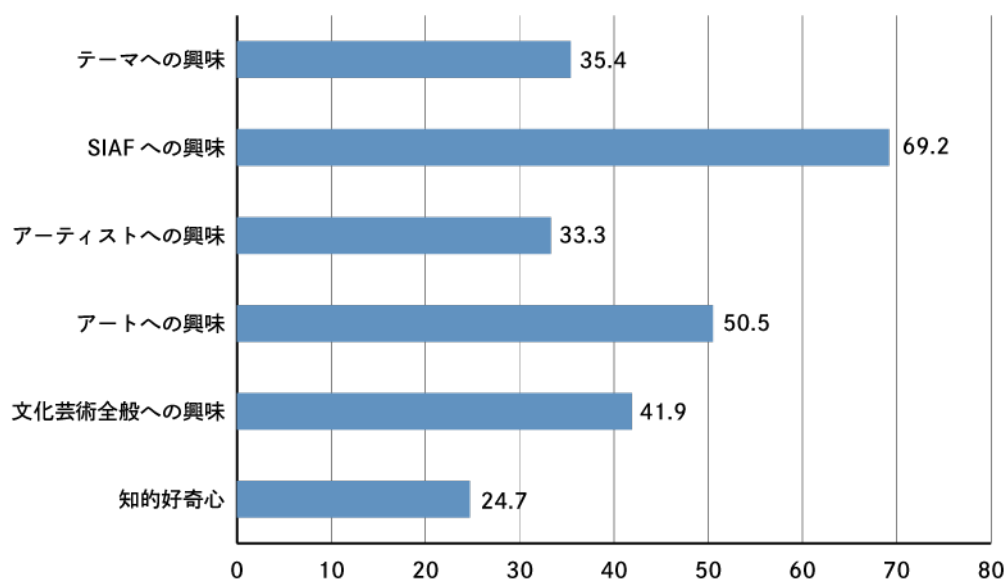
問6.このような展示をまた見たいですか。[N=241]



問7.この展示を何で知りましたか。(複数回答可)[N=241]

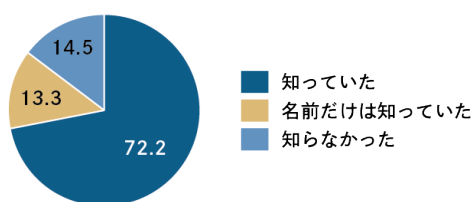


問7-1.問7で「たまたま立ち寄った」以外に✓をつけた方にお伺いします。どんなことに興味を持って来場しましたか。  
(複数回答可)[N=198]

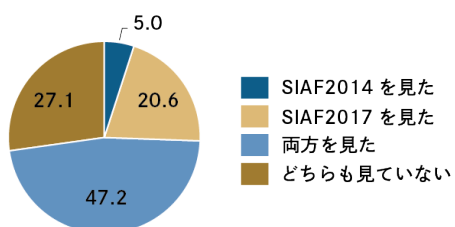


■ SIAFについてお伺いします。

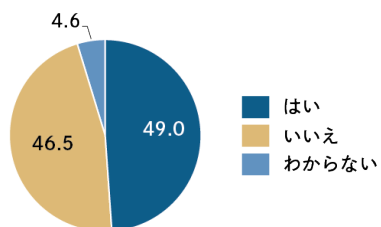
問8.SIAFを知っていましたか。[N=241]



問8-1.問8で「知っていた」に✓をつけた方にお伺いします。過去のSIAFをご覧になったことはありますか。[N=199]



問9.SIAF関連のイベントに参加したことはありますか。[N=241]



## 7 講評(札幌国際芸術祭コミッティー)

### (1) SIAF—市民が尊厳をもって生きるためのライフラインとして | 飯田 志保子

SIAF2020はディレクターチームがテーマに込めた展望、参加アーティストの作品実現と発表、そして展覧会を通じた観客とのインタラクションを具現化するフィジカルな機会の中止によって、逆に中止発表後のオンラインや紙媒体での単なる報告に留まらない精力的な活動が際立つこととなった。関係者一同が、何としてでも札幌市民と道内外の新旧の観客にSIAF2020を届けようとした不屈の努力には感嘆するばかりである。加えて、たとえ周期開催を前提とする性質の事業であっても、行政主催の場合、実施後の評価を待たずして将来の開催を明示するのは難しいことが多いなかで、中止発表と同時にSIAF2023開催の意思を表明した札幌市の事業継続に対する意思も特筆に値する。量的評価に偏りがちな従来の事業評価に対し、予定通り実施した事業のみならず中止決定を受けて変更を余儀なくされた未完の事業に対しても、主催者が単なる結果主義に陥らない成果主義的な質的評価を重視したことの顕れである。このことは、民意を数値の大きさや多数派への迎合と取り違えることなく、また逆に一部の大きな声に屈することもなく、市民の多様性とSIAFの発展可能性を担保するために極めて重要である。民主主義国家において行政機関が標榜するのは民意の多様性だからである。中止をめぐる試行錯誤のなか、「この状況下で誰のためにどのような方法でSIAFを行うのか」に関係者一同が自問し、議論を重ねてきた過程と不断の努力を知るコミッティーのひとりとして、未来のSIAFとそれを享受する市民に向けてバトンを渡そうとする札幌市とSIAF2020の強い意思を感じられたことは高く評価したい。

長い芸術史のなかで国際展の歴史はまだ浅い。長期的観点からすると、SIAFがいつか札幌と国際社会に根付くため、今は踏ん張って根を張ることが不可避な段階にあるといえる。そうした逆境の時期に支えとなるのも民意である。

SIAF2023に向けた今後の検討事項として挙げたいのは、SIAF2020を待望していた市民との関係をいかに維持・発展させていくかである。SIAF2020の中止によって、市民にとっては中間年が引き延ばされたことになる。SIAF2020が培ったリソースは、市民とのコミュニケーション・ツールや教材として中間年に活用し得る質と量を備えている。例えば、充実した作家へのインタビュー映像は、近現代美術史とメディアアート史の連続講座を組む際の入口になる。実現しなかったからこそテーマや「完成／未完」の概念は想像力を喚起し、思索的・推論的なディスカッションをもたらすだろう。さらに、中止決定以後も創造性を失うことなく臨機応変に対応した企画やマネジメントの仕事や、芸術文化事業における危機管理について学ぶなど、様々な展開が考えられる。複数の地元の専門家が参画したことで、事務局が支援を求めることができる人材が身近に増えたこともそうした可能性に現実味をもたらす。ただし、遺されたりソースをどこまで継承し市民に開いていくかは、また別の議論を要する。ピエンナーレやトリエンナーレには、各回に固有の一過性・独自性と、個別の回を超えた周期性・継続性という異なる性質が同居している。冬季開催、企画体制の枠組み、実現しなかった作品構想、アートメディアーションの考え方といったSIAF2020の根幹を成す各要素は、継承されるべきか仕切り直されるべきか。さらに、継承によってSIAFは市民とどのような関係を築くことを目指すのか。昨年来、コロナ禍がもたらした様々な制限と「不要不急」の線引きで、生の営みに必要不可欠なものが改めて問い直されている。そのなかで、観光促進や経済波及効果を芸術祭開催目的の第一義とすることは本質的ではなく、必ずしも理に当たらないことが明らかとなった今、SIAFは市民が「尊厳をもって生きるためのライフラインとして札幌にはSIAFがある」と明言できるような芸術祭であることを望む。



## (2) 中止の産物としての可能性実験と、その検証結果の生かし方 | 木ノ下 智恵子

SIAF2020は、冬開催、外国人ディレクターの登用、複数名のコレクティブ形式によるディレクションチーム、地元札幌の学芸の本格参画という、初めてづくしであったため、あらゆる意味で重要かつ今後の分岐点となり得る“三回目”であったと言えるだろう。それは不本意ながらも【中止】として公式発表せざるをえなかった状況とともに、その後の取り組みの全てを包括した“もう一つの芸術祭”とも言うべき“SIAF2020というあり方”を含めて、である。

新型コロナウイルス感染症の影響が顕著になりはじめた2020年3月以降、世界はもとより日本各地の美術館での展覧会や芸術祭が閉鎖・中止・延期に追い込まれた事実を鑑みると、SIAF2020の【中止】もやむなしの決断であったろう。しかしながら、ディレクター陣やアーティストの方々、関係する人々が苦渋を抱えながらも挑んだ“その後”は、単に【中止】と言ってしまってもよいものなのか。7月のプレスリリース後、展覧会の実現と実来場という従来型の芸術祭は公式的には確かに【中止】となったが、11月に“SIAF2020特別編～開催中止となったSIAF2020を今できる限りの方法で公開します”という宣言文のようなメッセージが、タイトルロゴ・アイコンとともに掲げられて以降、YouTubeコンテンツ「SIAF TV」、ウェブサイト「SIAF2020マトリクス」、「SIAF2020ドキュメント」展示、記録集「SIAF2020インデックス」等々の、怒涛の快進撃とも、猪突猛進ともいえるプログラムの質量が、“中止を超えた実証”として、現在においてもなおSIAF2020を体感しうるアーカイブとなっている。またテーマである「Of Roots and Clouds: ここで生きようとする」には、COVID-19によって“人間社会だけ見ても解決しない直面する課題”を、“私たち人間の行動が惑星そのものを破壊し得ること”を移動制限によって自然環境の改善を、“テクノロジーが生み出した見えないネットワーク”が奇しくも日常を支えたことを、いみじくも予言的メッセージとして込められていたのである。だからこそ、世界中が直面する社会課題の影響下においてもなおSIAF2020は、創造活動を如何に諦めずに、思考を停止せずに、歩みを止めずに、可能性実験を実践し、「ここで生きようとする」という態度表明を成し遂げることができたのであろう。

よって“SIAF2020”は、ユネスコ創造都市ネットワークのメディアアーツ都市・札幌における、行政施策の重要な旗艦事業であることの所以と根拠を、改めて自明の理としたと言えるのではないか。であるからには、観光インバウンドや地域活性化など社会課題に寄与する芸術の拡張機能による経済効果や指標・成果とは異なる次元で、事業を見つめ直すべきではないか。事実、同時期の同種の他地域における行政事業と比較検証しても、恐らく、いや必ず、一線を画す実績があるのだから。

さて、これまでは“SIAF2020”を大いに評価してきた。だがしかし、それは条件付きであることをご留意いただきたい。“SIAF2020”で実現しえなかった無念と熱量、そして思考とアイデアの数々を、丁寧に編み上げた創造の種を、どのように扱っていくのか、活かすも殺すも、主催者次第である、ということを肝に銘じて、次に向かうべきである。

### (3) 「COVID-19以降の芸術祭」を提示するために | 久保田 晃弘

コミッティー会議の出身で、地元の美術館や学芸員とのつながりも深い、日本人の現代アート企画ディレクター、国際的なメディアアートのビエンナーレを開催、運営し続けてきた、ポーランドのメディアアート企画ディレクター、そして公募によって選ばれたコミュニケーションデザインディレクター。こうした、特徴も背景も、役割も異なるヘテロジニアスな三名のチームによってディレクションされ、さらに札幌という街を直接的に特徴づける、雪に覆われた初めての冬季開催。坂本龍一、大友良英という個性的なゲストディレクターによって切り開かれ、牽引されてきた、これまで2回のSIAFの経験と実績を踏まえた、このSIAF2020が開催されていれば、それは実質的に「最初の」SIAFとして記録され、人々の記憶に残るものとなったはずだ。COVID-19による開催中止は、個人としてのディレクター、事務局メンバーやスタッフのひとりひとり、協力していただいた学芸員の方々、そして何より出展していただく予定だった作家のみなさんにとって、限りなく無念で、心残りであっただろう。それでも「開催中止となったSIAF2020を今できる限りの方法で公開した」ことの意義は、果てしなく大きい。たとえSIAF2020が中止になったとしても、この3年間、そのために思考し、議論し、企画し、準備してきたことの意義や成果が失われるわけではない。むしろ開催したことによる一過性の達成感や、即物的、感情的な充足感が得られなかったことが幸いして、SIAF2020実施までのプロセスや試行錯誤、さらには札幌にとっての芸術祭の意義などが、良いこともそうでなかったことも含めて、関わってきた人々、そして市民の中により深く刻み込まれたのではないか。

最初のSIAFになるはずだった、こうした数々の営みは、代替イベントとしてのドキュメント展やさっぽろウインターチェンジ2021、インデックスやマトリクス、そしてこの事業報告書を通じて、SIAF2023にできる限り引き継いで行って欲しい。なぜなら、次のSIAF2023こそが、結果として6年の準備をかけることになる、本当の意味での第一回SIAFとなるからだ。それは同時に、これまでの社会や人々の生活を大きく変えることになった「COVID-19以降の芸術祭」を社会に提示することでもある。

月周回軌道上で、月着陸船の全機器の試験を行い、さらに月面から15.6kmまで降下し接近した(しかし着陸はしなかった)アポロ10号の成果があったからこそ、アポロ11号の月面着陸が成功した。もうあとは実施するだけ、というところまで企画と準備が進められていたSIAF2020の記録と成果を、丁寧に吟味継承することによって、SIAF2023がポストパンデミック時代の新たな、そして札幌独自の芸術祭としての何ものかになり得るに違いない。芸術は、決して余暇や娯楽のためだけにあるのではない。刺激や感動を与えてくれるだけのものでもない。COVID-19のような感染症だけでなく、経済格差や政治的対立、環境破壊や地球温暖化といったグローバルな危機が起り続ける時代(アポロ13号のような事故は常に起り得る)だからこそ、文化芸術が本当の意味で必要とされる(非常時に必要とされない文化芸術は偽りだ)。僕は、このSIAF2020の意義と成果は、2023年に改めて評価するべきものだと思う。始まらなかったSIAF2020は、決して終わることなく、そのビジョンとスピリットは、SIAF2023に向けたプロセスの一部として、絶えることなく生き続ける。

#### (4) 札幌の特徴の表出と、市民への浸透に向けての確かな手応え | 吉崎 元章

過去2回の開催を踏まえ、私が札幌国際芸術祭2020に対して特に期待していたことが2つある。札幌ならではの特徴を強めることと、アーティストや美術関係者も含めた札幌市民との親和感を深めることである。開催自体は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となったが、準備過程で積み上げてきたことや中止決定後の多様な取り組みは、これらの課題の改善に向けた確かな手応えを十分に感じさせるものであった。

前者は、まさに冬に開催するという挑戦的な試みによって強く導かれるものである。苛酷と言っていいほどの降雪量や寒さといった自然環境と、それを克服するために整備されたインフラという札幌の最も特異な部分を、アートを通して見つめ直し、さらに強く意識させたり新たな魅力へと転化させる機会になるはずであったにちがいない。実際に作品を展示することは叶わなかったものの、さまざまな方法で公表されたコンセプトやドローイング、インタビューなどを通して、予算や安全面、物理的な制約など、実現するまでに解決しなければならない諸問題によって変更される前の瑞々しい発想を逆に知ることができ、札幌の地に働きかける表現の可能性を作品展示とは異なるアプローチから示すものとなった。また、札幌の冬を活かした作品展開として、SIAFラボがつららや除雪をモチーフに長年取り組み、バージョンアップを繰り返しながらクオリティを高めていることに注目している。本祭にこれらを良いかたちで組み入れることを考えていくべきであろう。

一方、幅広い多くの市民が芸術祭に関心をもち、深く楽しんでもらえるようにしていくことは、直近の最優先課題である。そのために取り入れられた、コミュニケーションデザインディレクターが早い段階から企画に加わっていくという新体制は、有効に機能し得ると感じられた。アートメディエーションを基本概念に据えて行われたプログラムや関連する働きには、等身大の対等な立場で作品と市民をつなごうという意図が十分に伝わってきた。ワークショップ等への参加者の顔ぶれや、SIAF TVをリアルタイムに視聴した人数とその書き込みを見る限りにおいては、極一部の熱心なファンに支えられているという印象ははまだ否めず、「内輪だけの盛り上がり」と前回揶揄されたことからの劇的な前進はまだ見られないが、限られた条件のなかでも、オンラインによる地域や時間を超えて新たにファンを開拓するなど、その効果は着実に実を結びつつある。実際に作品が展示され、多彩なプログラムや大々的な広報が展開されるなかにおいて総合的で繊細な目配りが行われることで確かな成果を生むことだろう。

さらに、「Of Roots and Clouds:ここで生きようとする」というテーマのもと、市内の美術館の学芸員を企画に加えるとともに、館の所蔵作品も活用しながら、この雪国で育まれた表現を積極的に取り込もうとしたことは、地元のアーティストや美術関係者の多くが感じている札幌国際芸術祭との距離感を縮める大きな一歩であった。札幌での芸術祭実現のために地道な活動を続けてきた地元の人達のなかには、実際の芸術祭の準備や企画が道外勢を中心に行われたという排他的な印象が根強く残っている。今回のような北海道の美術を無理なく導入する動きは、それらを緩和するとともに、北海道内の美術館との結びつきを強めることにもなる。芸術祭の継続によって札幌にもたらされる長期的な目標を達成していくうえで、芸術祭単独ではなく、美術館をはじめとする文化施設との目的意識の共有が不可欠であり、そのためにも重要な歩みであったと言える。

次回においても、海外のディレクターを加えることによる国際性の強化や、メディアアートの積極的な紹介などを含め、今回のこうした試みの道筋をぜひ継承し、実際の開催を通して成果を実証してほしいと思う。都心北融雪槽など新たに見出したスペースの活用や、美術館をはじめ構築された関係性をさらに深めながら、新たな発見と広がりを生む札幌市民に愛される芸術祭を目指すことは、ひいては全国、海外に対するプレゼンスの高まりを補強していくことにもなるだろう。

## (5) 展示の中止が生んだSIAF2020の予期せぬ成果 | 吉本 光宏

新型コロナウイルスの世界的な蔓延を受け、札幌国際芸術祭2020の中止が発表されたのは、7月22日。その決定に至るプロセスで、3名のディレクター、事務局には、我々コミッティーメンバーの想像を超える葛藤があったはずだ。

その発表に先立つ7月9日、コミッティー会議が開催され、中止の方向が示された中で、オンラインでウェブ上だけで展開することはできないか、展示は行わないにしても中止とは別の発表方法はないか、等々、意見が交わされた。その後15日にはディレクターも交えたミーティングの機会が持たれ、記録集SIAF2020インデックスの制作につながるアイデアが共有された。

短文を寄稿することになったインデックスは、制作途中のグラを見て、2年半にわたって企画、準備されてきた芸術祭の全貌と、ひとつひとつの作品や展示の奥行きを知るところとなり、展示中止の決定を改めて残念に感じた。

スケジュール表を見て、そのグラを受け取るかなり前、11月2日にコミッティー会議が開催され、中止後の取組について意見交換を行っていたことを思い出した。正直なところ、その会議で示された事業計画案は、新型コロナさえなければ実現したはずの芸術祭と比べて、どれもが中途半端に思え、言葉は悪いが、中止後の「悪あがき」的な印象を拭うことができなかった。

ところが、実際に実施されたプログラムを見ると、とは言ってもウェブ上での体験、確認に過ぎないのだが、いずれの事業も、関係者の尽力によって内容の濃い、予想を裏切るものになっている。仮に展示が実現していたとすれば、「SIAF2020ドキュメント」も、「SIAF TV」も、ウェブサイト「SIAF2020マトリクス」も、「記録集 SIAF2020インデックス」も、このような形で実現しなかったに違いない、とさえ思わせる充実ぶりである。とりわけSIAF2020マトリクスは、ウェブ空間ならではの芸術的体験と思索の時間をもたらしてくれる。

すべてを子細に確認したわけではないが、「うんとねfromさっぽろ」や、「聴いて、感じて、楽しいオーディオガイド」などのメディアーションプログラムも大人から子どもまでが楽しめるものが用意された。

またまた言葉は悪いが、どのコンテンツもディレクターや事務局が中止の「鬱憤を晴らす」ようなエネルギーに満ち満ちている、と私には感じられた。もちろん、それは怒りをぶつけるネガティブなものではなく、丹精込めて準備してきたSIAF2020の考え方や狙い、展示されたであろう作品の内容、そしてその背後にあるアーティストの発想や現代社会へのまなざしを少しでも良い形で、誰にでもわかりやすい形で、そして現代アートならではの手法、メディアシティを標榜する札幌市ならではのスタンスで表現し、伝えようというポジティブなものである。

しかも、多くのコンテンツはSIAF2020のウェブサイトでも未だに鑑賞することが可能だ。新型コロナによって、世界中の芸術関係者はオンラインによる新たな取り組みを展開している。コロナ前とコロナ後では、仮想空間に存在する芸術的なコンテンツは桁違いに増えたはずだ。やがて、その多くが忘れ去られ、淘汰された先に、SIAF2020のコンテンツが生き残ったとすれば、それこそ、展示の中止が生み出した予期せぬ成果であり、SIAF2023に向けた大きな指針となっていくだろう。

